

平成22年6月21日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520181
 研究課題名（和文）義堂周信の観念的世界形成をめぐって

研究課題名（英文）Considering the Formation of Gido Shushin's Realm of Ideas

研究代表者

朝倉 尚（ASAKURA HISASHI）
 鈴峯女子短期大学・言語文化情報学科・教授
 研究者番号：80033231

研究成果の概要（和文）：義堂周信（1325-88）の観念的世界形成の解明に不可欠と判断された五山版を主とする諸文献を収集、整理した。あわせて、義堂に影響を与えた師僧の実態を知るために、自身編纂の偈頌詩総集『新撰貞和集』『重刊貞和集』（以下、「両集」とも略称）を取り上げ、諸本を収集、整理して、五山版が最善本であることを確認した。両集への入集が最多である二人の来朝僧・無学祖元と清拙正澄等の作品を中心に、それぞれの僧の別集作品と比較し、両集の収集源の詮索を進めた。

一方、義堂の作品集『空華集』の読解も続けた。

研究成果の概要（英文）：

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：(1) 五山文学 (2) 義堂周信 (3) 五山版
 (4) 空華集 (5) 新撰貞和集 (6) 重刊貞和集
 (7) 観念的世界 (8) 博引旁証

1. 研究開始当初の背景

五山文学の分野において、外国文化としての「禅文化」がどのような形で日本化されたか大きな問題であり、可及的速やかに解明されねばならない。そもそも、五山文学の特徴として、一つには内容的な面における俗世界の「価値の転換」があり、一つには表現面における「観念的世界の展開」がある。前者は

禅的な発想・禅味に直結する問題であり、後者は佳句や名句の典拠をいかに作品内容・素材に即して展開するかであり、博引旁証に直結する問題である。「禅的发想」といい、「博引旁証」といい、そもそもは印度・中国からの借り物であるが、それを単に紹介、模倣するに止めず、さらに受容・消化して発展させた点が特筆に値する。そして、小生としては、

これら五山文学が具有する二つの特徴が、特に中世国文学が内包する基本的な性格と共通していることを指摘し得るまでに至った。「観念的世界の展開」用語については、師の中川徳之助『『白鷗』考—禅林文学の詩想についての一考察—』（『日本中世禅林文学論攷』所収。清文堂、1999）を継承するものであるが、小生もこれまで主として以下の著作において、積極的にその実態の解明に努めた結果を公表している。

イ、『禅林の文学—中国文学受容の様相—』（清文堂、1985）

ロ、『抄物の世界と禅林の文学—中華若木詩抄・湯山聯句鈔の基礎的研究—』（清文堂、1996）

ハ、『禅林の文学—詩会とその周辺—』（清文堂、2004）

ニ、『中華若木詩抄・湯山聯句鈔』（大塚光信・尾崎雄二郎・朝倉尚共編、新日本古典文学大系 53、岩波書店、1995）

観念的世界の展開・博引旁証は、本朝禅僧が蓄積に努めた結果、五山文学の基本的性格の一方の柱となったが、時代が降るにつれてあまりに高水準化した観があり、そのためにやがて五山文学が衰退する一因をなしている。この間の推移の実態は、前掲のイロハ、就中イにおいて明らめたつもりである。そして、その中で禅林・禅僧の観念的世界の原型を確立し、発展の基礎を築いたのは、義堂周信（1325-88）その人であると考えてに至った。

2. 研究の目的

(1) 義堂周信の作品の解釈・読解を進める中で、義堂自身の観念的世界の実態を解明する。観念的世界の大半は、伝統的な文芸を基盤にしており、具体的には宗教書（教典）のほか、中国文人の詩文集、禅僧の語録・別集などから吸収されたものである。そして、それらは義堂が直接原典に触れて独自に蓄積したものもあるが、師事した先輩僧、さらには親交を有した同輩僧から獲得したものもある。かくして、禅僧・禅林の原型を確立したと考える義堂の観念的世界の由来・内実・特徴を究めるために、当代に刊行された五山版の活用を優先して、当時に流布していた教典・詩文集・語録・別集から受けた影響を確認する。

(2) 義堂の作品集『空華集』、編著総集『新撰貞和分類古今尊宿偈頌集』『重刊貞和類聚祖苑聯芳集』（以下、『新撰貞和集』『重刊貞和集』と略称）の基礎的研究の作業を遂行し、

諸本の集成、さらには再整理の大略を果たしている。そこで、これらの成果を踏まえた上で、作品を実際に読解、その観念的世界・博引旁証を確認することにより、精度の高い作品本文を特定することを目指す。従来、禅僧作品の本文が諸本間で流動的・不安定である一因が、引用典拠に不案内の書写者・刻字者の所為であると実感しているためである。

(3) 義堂の作品には、後代の禅僧・禅林が形成した総体としての観念的世界の中の、主要部分＝必要にして欠くべからざる最小限度のものがすでに内包されていると言っても過言でないことを証する。また、外来文化としての禅文化を招来・流布した段階を「萌芽・生長」期と位置づければ、日本化して普及・創作した段階が「隆盛」期として位置づけることができよう。その隆盛期を築き上げる原動力としての役割を果たしたのが義堂であったことを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 全国各地の寺院や図書館に所蔵される五山版、義堂に影響を与えた師僧の作品集、さらには義堂と交友の存した僧の作品集について、所在を確認して実地に踏査し、収集すべきか否かを判断する。これら義堂を中心とした五山文学関係の作品集は、鎌倉五山の円覚寺、京都五山の南禅寺天授院、相国寺慈照院、建仁寺両足院・大中院、東福寺霊雲院等をはじめとする禅宗寺院・塔頭に集中して収蔵される。五山版については、国会図書館、内閣文庫、お茶の水図書館成篋堂文庫、東洋文庫（岩崎文庫）、岩瀬文庫、天理図書館、松ヶ岡文庫等にも多く収蔵される。量的には必ずしも多くないが、足利学校や米沢文庫、蓬左文庫を始めとする各地の図書館や文庫にも貴重な善本が所蔵されている。東京大学、京都大学、慶応大学（斯道文庫）、駒沢大学、花園大学にも多くの関連作品集が認められる。

(2) 所在と保存の状態を確認した上で、複写による収集の作業に取り掛かる。が、特に禅宗寺院・塔頭に所蔵される作品集の場合、しばしばこちらから出向いて直接に手写するか、写真撮影するしか認められない状況である。次いで、五山版については、それだけでなくも貴重書として扱われており、複写が不可能な上に、閲覧料も必要となる場合がある（例：成篋堂文庫）。作品量の膨大なものも

含まれる上に、刻字が不鮮明なこともある。複写が許可されても上質の紙焼き複写となることが多い。自らが撮影に出向く折は、朱点・朱注等を識別するために、特別の配慮も必要である。

(3) 観念的世界の展開に関して、義堂の『空華集』の読解を進める。主として、作品に用いられる典拠を明らかにする作業である。原典を確定することは難事であるが、第一歩を踏み出すことで、やがてこれを積み重ねることで、義堂の観念的世界が解明されることになる。なお、この作業を進めるに当たっては、できる限り上記の五山版をはじめとする複写物を活用する。さらに、禅僧の手になる抄物の類や、字書・類書等を活用する。

(4) 義堂の観念的世界の形成に影響を与えたと考えられる宋・元の禅僧の作品集を重点的に収集する。なお、その選定にあたっては、義堂が編纂した『新撰貞和集』『重刊貞和集』への入集状況を勘案した。

4. 研究成果

(1) 宋・元代の著名文筆僧の代表的偈頌を選集した『新撰貞和集』『重刊貞和集』(以下、「両集」とも略称)に入集する作者の五山版作品集を中心に収集、整理した。その上で、両集への入集状況をもとに、両集の作品収集源を解明する準備を整えている。

(2) 『重刊貞和集』について、以下の知見を得た。

① 五山版が最善本であり、現状で最も流布している「大日本仏教全書」所収の本文は慶安5年刊本を底本としたもので、「粗雑」な点が多々認められる。そのまま利用するのは極めて危険であることが判明した。

② 「大日本仏教全書」所収の本文と五山版の本文との間の異同を整理し、義堂の編纂した原本に復原するための作業を進めた。その結果、大日本仏教全書本を利用する際に必要な最小限の訂正事項が整理された。

③ 五山版→寛永9年刊本→慶安5年刊本→大日本仏教全書本における本文異同の推移は、禅僧の他の作品集の本文、特に本朝禅僧が編纂した総集の本文推移の類型として

考えられるのではあるまいか。今後の課題である。

④ 五山版諸本に施される註記を整理し、本文の確定、作者の特定、収集源の詮索等への活用を試みた。新しい試みであるが、その結果の正誤、妥当性については現時点では判断できない。

(3) 『新撰貞和集』『重刊貞和集』への入集が最多である、二人の来朝僧・無学祖元と清拙正澄の作品を中心に、両僧の別集の作品と比較し、収集源の詮索を進めた。両集の収集源が特定されることを期待したが、現状では特別の一本(諸本)に拠っていたとは推断することができない。義堂は非常に多方面より収集していた様子である。

(4) 義堂の作品集『空華集』の第一読解に資するために、義堂と交友の存した僧の作品、さらに禅僧の手になる抄物や字書・類書等も収集、披見することに努め、作者の観念的世界を反映した新たな読解法を確立するべく模索中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 朝倉尚、景徐周麟の文筆活動—延徳三年(6)一、人文社会科学研究集報、査読無、56巻、2009、pp. 97-125
- ② 朝倉尚、景徐周麟の文筆活動—延徳三年(5)一、人文社会科学研究集報、査読無、55巻、2008、pp. 113-130
- ③ 朝倉尚、「艶詞」考—『東土蘿蔔』『小補艶詞』『月関宛艶詩集』をめぐって—、国語と国文学、査読有、84-4巻、2007、pp. 26-41
- ④ 朝倉尚、景徐周麟の文筆活動—延徳三年(4)一、人文社会科学研究集報、査読無、54巻、2007、pp. 59-74

[学会発表] (計 件)

[図書] (計1件)

- ① 朝倉尚、他、西尾市岩瀬文庫、創立一〇〇周年記念特別展・岩瀬文庫の一〇〇点、2008、75(1)

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝倉 尚 (ASAKURA HISASHI)

鈴峯女子短期大学・言語文化情報学科・

教授

研究者番号：80033231

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：